

子供とお年寄りを守ろう

秋の全国交通安全運動

九月二十一日から三十日までの十日間、秋の全国交通安全運動が繰り広げられます。今年に入って交通事故で亡くなった方は、六月末日で三千九百二十三人(全国)です。昨年と同じ時期に比べて二百十二人(五・一%)減っていますが、交通事故の発生件数および負傷者の数は、逆に増えているのが特徴です。

また、亡くなった方では、相変わらず子供とお年寄りが多く、原動機付き自転車の事故による死者を含めて、道路交通の上で「弱い立場」にある人々の犠牲が目立っています。

こうした死亡事故の原因をドライバーの側から見ますと「スピード違反」をトップに「わき見運転」「酒酔い運転」と続き、この傾向はここ数年まったく変わっていません。このようなスピードへの慣れや、ちよつとした油断などドライバーとしての基本的な事柄をきちんと実践してこそ、「事故のない明るい社会」への第一歩といえるでしょう。

- ◎このような背景から今年、
- ◎子供と老人の交通事故防止
- ◎自転車および原動機付き自転車の安全利用の促進
- ◎安全運転の確保とシートベルト

着用の推進
の三項目を重点テーマに、国民総ぐるみで秋の全国交通安全運動が行われます。

市内での死亡者は

昨年の二倍!!

日光市内で昨年発生した交通事故は百十件で、負傷者が百六十七人でした。今年の七月三十一日現在での交通事故は六十四件、負傷者が九十四人です。これを昨年同期と比較しますと、件数にして十八件、負傷者では三十六人増えています。

死亡者は昨年一人でしたが、今年はずでに三人の悼ましい犠牲者

原動機付き自転車の死亡事故が増えています

全身で風を切って走る——この快適さは、バイクならではのものです。なかでも、50CC以下の原動機付き自転車の人気は高く、保有台数も全国で約七百万台と、全バイクの七割以上。最近では女性ドライバーの増加が目につき、事故も増えていきます。原動機付き自転

(重点テーマのひとつ、老人の事故防止については、関連記事「交通ルールとお年寄りの心理」が、9ページに掲載してあります)

ができています。

全国的には交通事故が減少傾向にあるといわれていますが、日光市内では逆に増えているのです。外来車が多く入り込む観光地という特殊性もありますが、私たち市民は交通ルールを正しく守り、悲しい犠牲者を一人でもださないようにしたいものです。

車は、女性も手軽に乗れる半面、全身が常に外部にさらされていますので、ひとたび事故を起すと、取り返しのつかない事故を招くことが多いのです。原動機付き自転車を利用していただくみなさん、運転には、次のような点を十分注意しましょう。

原動機付き自転車の安全な乗り方

交差点では一時停止を



事故の約三割は、交差点での出合いがしらに起きています。交差点では、スピードを落とすか、いったん停止して左右をよく確かめてから渡りましょう。

法定速度を守ろう



原動機付き自転車は、時速三十キロ以上で走ってはいけません。スピードの出し過ぎは、急ブレーキの原因となり、転倒する危険性が伴います。また急発進も事故のもとです。

ほかの車から見やすいところを走ろう

車体が小さいために、大型車の運転席からは「死角」に入りやすいので注意しましょう。左折時に

巻き込まれないためにも、大型車と並行して走るときは、十分気をつけたいものです。


点検整備を忘れずに



車輪、ブレーキ、灯火の三点は、いつも点検整備をお忘れなく。なお、自賠責保険への加入が義務づけられていますので、未加入の方はすぐ手続きを。



ヘルメットをかぶろう



自動二輪車による死亡事故の七二%は、頭部損傷によるものです。ヘルメットは、JIS規格のものなど良質のものを選び、あごひもをきちんと結んで、正しくかぶりましょう。